

新高通信



第74号

秋田県立新屋高等学校

第37回 新高祭開催

6月24日～25日に第37回新高祭が開催されました。今年のテーマは「咲き誇れ希望！！～こめる想いを解き放て～」。このテーマにはコロナ禍であっても様々な可能性を模索し、咲き誇る最高の学校祭を目指したいという思いが込められました。昨年に引き続き、一般公開なしの開催ではありましたが、例年の企画に加え、今年度から新たに設けられたオープニング企画アラコレや後夜祭E-sportなどにより、学校祭を存分に満喫できたようでした。また学校祭の様様をオンライン配信したことにより、来場できなかった保護者の方にも、その様様をお伝えすることができました。



集大成で迎えた新高祭

生徒会長 須田 琳人



皆さん、全校生徒で作りに上げた学校祭はいかがだったでしょうか？

新型コロナウイルスが蔓延中で新高祭を企画・運営しなくては行けないという状況は昨年度と変わりありませんでしたが、制約がある中で、できる限りの創意工夫を凝らして全校生徒はもちろん先生方も楽しませるとというのが目標でした。一般公開なしで2日間新高祭を行ったり、校内向けに配信を行ったり、全校生徒が参加できる企画を一新したり、昨年度は行わなかった後夜祭を復活させてeスポーツ大会を行ったりと、次々と新たなことに挑戦しました。その分、準備は甚だ苦勞し、毎日、誰もいない真っ暗な校舎を歩いて帰るといった生活を日々、送っていました。期待や緊張、不安などの多種多様な感情を抱きながら当日を迎えました。これは当たり前ですが、イベントは大規模なほど計画通りに行かないものです。前々から当日の動きは入念にチェックしていましたが、ハプニングや配信機材のトラブルが起きました。ですが、生徒会執行部員や技術班を総動員して問題を解決することができました。今回の新高祭を通して、より柔軟性が身についたと実感しています。

最後に、こういった状況下でも新高祭の運営を支えてくださった先生方、様々な生徒会執行部の活動にご協力してくださった生徒の皆さん、本当にありがとうございました。

～2年ぶりの全校野球応援～

全国高校野球選手権大会秋田県大会が7月9日から開会となりました。本校野球部は初日に西目高校と対戦し、炎天下の中、熱戦を繰り広げました。試合は3対6と惜しくも敗れてしまいましたが、選手たちの夏にかける思いが感じられる試合展開でした。新型コロナウイルス感染防止のため、声を出せないという制約つきの応援でしたが、生徒たちは吹奏楽部の演奏に合わせ、メガホンを叩き、精一杯の応援をスタンドから送りました。

